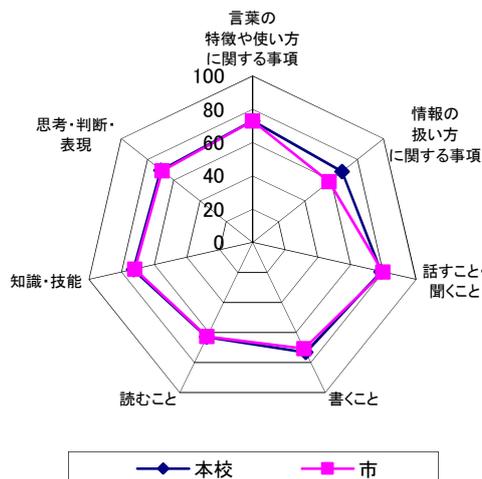


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.1	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	68.3	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	78.6	79.8	75.9
	書くこと	73.2	70.7	71.7
	読むこと	63.0	62.8	62.5
観点別	知識・技能	72.8	72.0	74.4
	思考・判断・表現	69.8	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域全体の正答率は市の平均とほぼ同じ結果となっている。 ○問題の内容別の正答率では、漢字の読み・書きともに4問中3問が市の平均を上回った。	・単元末のミニテスト等の積み上げの成果が見られる。ミニテストでは、読み取りの確認テストも意図的に取り入れ、正確に漢字を読む力の定着を図っていく。 ・単元末にある漢字の確認ページを活用し、通常の読み・書き・特別な読み・書き全般の指導に努める。
情報の扱い方に関する事項	○領域全体の正答率は市の平均を9.8ポイント上回っている。 ●問題の内容別の正答率では、市の平均正答率は上回っているものの、68.3%という結果だった。	・目的は何であるか、伝えることの本質は何であるか等、報告する文章に不可欠な要素を十分に理解させることができるよう、教材文を丁寧に扱って指導していく。 ・記述する力の向上を目指し、自分で考え、文章化し、ノートに書くという体験を授業の中で意図的に取り入れていく。
話すこと・聞くこと	●領域全体の正答率は市の平均を1.2ポイント下回っている。 ●問題の内容別の正答率でも、全ての内容で市の平均を下回った。	・今年度は特に「話すこと」には制限があり、十分に指導をすることができなかったことも結果に影響したと考えられる。話すことについての制限は指導CDの活用等の工夫で補っていくよう努める。
書くこと	○領域全体の正答率は市の平均より2.5ポイント上回っている。 ○問題の内容別の正答率を見ると、指定された長さで要約した文章を書く問題で市の平均よりやや下回った。	・意見文を書く力がついている児童が多く見られた。他教科での指導も通し、自分の考え・その理由を言える力が育ってきたことが書く力の向上にもつながった。 ・決められた条件で記述する力の向上を目指し、自分の考えや文章の内容を要約し、文章として整えるという体験を授業の中で意図的に取り入れていく。
読むこと	○領域全体の正答率は市の平均とほぼ同じ結果となっている。 ○物語文では登場人物の様子についてとらえる設問、説明文では文章全体の構成を考える設問で市の平均を上回った。 ●物語の内容の読み取りでは、全体像を具体的に想像する設問、表現の効果を考える設問で市の平均を下回った。	・物語文は場面に分けて、説明文は段落に分けて読み取りを進めることで、文章の大体を読み取る力が育ってきている。 ・情景の描写の読み取りや表現効果を知ることなど、文章の細部を読み取るために必要な力を育てる必要がある。文章の中の特徴的な場面や、よく使われる表現を授業で取り上げ、各自考えさせる等読み取りの力の向上に努めていく。